

3. 繊維名の認識度は、女性の方が高く、各職業とも知名度はカシミロン、ナイロン、テトロン、アセテート、レーヨンが、利用度はカシミロン、ベンベルグ、ナイロン、テトロン、レーヨンが高率。合成繊維か、否かについては不明確であった。また一般名と商品名との関係は男性に未記入が多く、女子大生は正確率が高い。ナイロン、アセテートは一般名が、アクリル、ポリエステル、キュプラは商品名が浸透していた。混紡の正解は女性が多いが、未記入・不正解より低率。ポリエステルは繊維の中で最も多く、ナイロンは低率で、全体として混紡の特質があまり理解されていない結果であった。用途の正解も女性が多く、キュプラ、アクリルは極めて高率、ポリノジック、ポリプロピレンは低率で、繊維名の認識度が低いと関連した結果が得られた。

B-50 合成繊維の消費実態（第5報）  
—化学繊維の普及傾向調査（繊維）—

昭和女大短大 刑部 昭子  
醍醐るり子  
岡野 都  
世古美佐江  
椎名 米子  
山良 順子  
○小ノ沢治子

1. 第1報～第4報の調査結果より繊維に対する認識が不明瞭な点が見受けられたので、繊維に対する基礎的な調査を行ない、一連の消費実態調査の信頼度を打診することを目的として本調査を行なったので報告する。

2. (1)調査時期：昭和44年6月。調査対象・部数：あらかじめ性別・職業別に5項目に区分し本学学生を通して東京及びその周辺地区に1,300部を配布し、聞き取り調査を行なった。(2)繊維名及び合成繊維の認識、一般名と商品名との関係、混紡、用途について性別・職業別・繊維別に考察を試みた。